

立憲民主党
The Constitutional
Democratic Party of Japan

号 外

令和2年 2月 発行
地域版（中川区）
立憲民主編集部
〒102-0093 東京都千代田区
平河町 2-12-4 ふじビル 3F
TEL 03-6811-2301

久野美穂 **通信**

名古屋市議員

〒454-0835 名古屋市中川区八家町 3-16 TEL 052-364-8812 <https://kunomiho.com>
発行：久の美穂を支える会、名古屋民主市会議員団

松葉公園に仮駐車場10～15台分



仮駐車場となる松葉公園の枯れ木置き場

「松葉公園の駐車場が足りなくて困っている」と、利用者の方々からお聞きしたのは、昨年1月のことです。公園に出向き調べてみました。

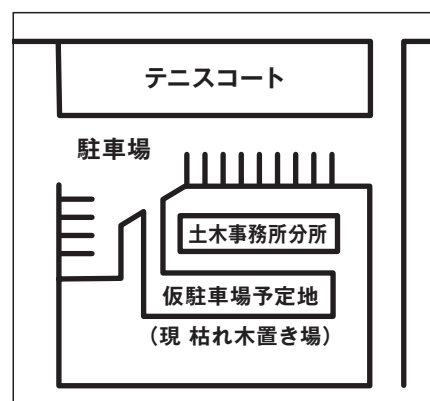
すると、公園内のフェンスに囲まれた中川土木事務所の分所は倉庫と化し、目の前には枯れ木置き場。駐車場が足りない

一等地の公園に、こんな無駄があつていいのか。久野美穂は、昨年6月初めの本会議質問で取り上げ、市の対応を問いました。

あれから半年。名古屋市政土木局は動きました。枯れ木置き場を仮駐車場にする工事を、この4月に始めます。仮駐車

GW前に増設予定 枯れ木置き場を撤去

実を結んだ
本会議質問



また、松葉公園の中川土木事務所分所については、解体が決まりました。枯れ木置き場を含めた跡地利用については、

新年度（令和2年度）に地域住民の方々と話し合う予定です。例えば、駐車場や子供の遊び場、憩いの広場を設けるなど、市側は利用者の方々と共に、様々なアイディアを

現状調べて提案、行政を動かす



市議元年2019を振り返る



去年は、温かいご支持、ご支援ありがとうございました。たくさんの皆様方のお支えのもと、市政の場で働かせていただいていることに感謝申し上げます。

この一年間、多くの方々に出会えたこと、また地域のご要望をお聞きし、それを少しでも実現、市政の場に反映できたことを何よりもうれしく思っています。

引き続き皆様とともに、より住みやすい中川区のために、名古屋市政のさらなる充実・発展のために、初心を忘れず尽くしてまいります。



久の美穂を支える会 会員募集



入会のお申し込み・お問い合わせは下記へ

郵便：〒454-0835 名古屋市中川区八家町 3-16
電話：052-364-8812 ファックス：052-354-0031
ホームページ：<https://kunomiho.com>

ホームページを
ご覧いただけます



不登校一番の原因は学力不振

久野美穂は昨年6月議会に続き、11月議会で本会議質問に立ちました。テーマは三つ。①学習指導支援 ②市立小学校の英語教育対策 ③男女共同参画の視点から見た名古屋市の防災対策 以上の3点です。今回は大事な教育問題について、私の質問内容と市側の対応をご報告いたします。



こちらから久野美穂の本会議質問録画をご覧になれます

好評な市の対策 なぜ拡充できぬ

名古屋市の児童・生徒の2600人が不登校です（平成30年度）。この数字にまず驚きます。そして、不登校になる一番の原因は学力不振なのです。生徒間の「いじめ」といった人間関係が、主な原因ではないのです。驚きました。

名古屋市は、昔の補習授業にあたる「子どもの未来応援講師」特設講座を設けています。

児童生徒に対する学習指導の推進や、悩みを抱える児童生徒支援など、主に授業後に特設講座を開設して、個別指導等を行

「子どもの未来応援講師」特設講座

小中223校が希望 配置わずか81校

行っています。また、普段の授業中に学級担任や教科担任を補助することもししています。

この制度は大変好評で今年度は小学校181校、中学校は42校が「子どもの未来応援講師」を希望しました。約6割もの市立小中学校が、授業が分からない子どもたちのために応援講師の配置を望んでいるのです。

しかし、教育委員会は小学校62校、中学校19校にしか配置しませんでした。なぜなのか？ 希望する全ての学校になぜ配置できないのか？ 市側

に問い質しました。

教育委員会は「極めて重要な事業であり、今年度は配置校数を80校から85校に増やしました。来年度は更に10校拡充する予定です」と答弁しました。この答弁は、あまりにもつましい。

教育に一番大事なことは、「子ども自身の成長」です。冷房装置の設置や校舎新設といったハード面の充実も、もちろん重要です。しかし、一番大事な「子ども自身の成長」にこそ、市は全力を挙げねばなりません。

私は特設講座の実情を知りたくて、ある小学校の講座を見学し、感心したことがありました。



本会議で質問する久野美穂

それは、一人の女の子が講座の後、先生に熱心に質問していたシーンでした。普段の授業についていけない子が、特設講座でも分からない内容をそのままにせず、好奇心と勇気をもって、先生に尋ねたのです。

「分かる楽しさ」を知り、やがて困難に出会った時に、自分で向き合う力を身につけて欲しい。これこそが教育の原点だと強く感じました。

学力不振が不登校の一番の原因です。市は学力向上のために、もっと積極的に取り組むべきです。

「教育先進都市」市は目指すべき

名古屋市は「教育先進都市」であってほしい。他の政令指定都市との比較といったレベルではなく、日本の他都市に先進するといった思い切った施策を打ち出してほしい。

「お金も出し、人もつける教育」こそ、「子どもに優しい」名古屋市がやらねばならない事業だと、久野美穂は思います。



◇… 久野美穂 プロフィール …◇

昭和 46 年 名古屋市生まれ
名古屋市立東山小学校 卒
金城学院中学校・高等学校 卒
慶應義塾大学文学部 卒
梅村学園中京大学 元職員
名古屋市立中学校 元講師
名古屋市立玉川小学校 元PTA 会長
平成 30 年 4 月 名古屋市議員に初当選
現在に至る

小学 5.6 年生

学習時間増、教科に格上げ 授業の3分の1は担任のみ

小学生にも英語能力が問われる時代になりました。名古屋市でも来年度から、5・6年生の外国語（英語）学習を教科に格上げし、算数や国語と同じように評価の対象にします。

教育現場での様々な問題を背負う教師の負担が、ますます重くなる……。

先生のタメ息が聞こえてくるようです。そこで、市はその負担を軽くするため、外国語アシスタントを

採用しています。

英語に堪能な一般人が、担任と一緒に授業を行うシステムです。ただ、あくまで担当は教師であり、アシスタント一人で授業はできません。

5・6年生の英語授業は現在、年間52時間（2週に3回）ですが、来年度からは70時間（週2回）に増え、教科となります。

文法を学ぶのではなく、音声で英語に慣れ親しみ、



会話できることを目指す授業です。

子どもたちに生きた英語を教え、担任の負担を軽くする外国語アシスタント制

度。ただ、残念なことに、英語の全授業で活用されているわけはありません。全授業の3分の1は担任だけで、アシスタントはいないのです。

名古屋市は英語教育を重視しています。だからこそ、時間数が増え教科に格上げされる来年度を機会に、外国語アシスタントを全授業に導入し、担任との二人体制で効果的に授業を行ってほしい。

久野美穂は、名古屋市の今後の方針を11月本会議で質問しました。市は「アシスタントの役割は大切で、配置の在り方を検証する。指導者向けデジタル教科書も利用し、楽しい授業をめざす」と答弁しました。

日本の英語能力は、世界百力国・地域のうち53位で9年連続の下落です。英語能力レベルは、4年連続で「低い」と位置づけられています（2018年EF・EPI）。

国も対策に乗り出しました。今後、大学入試では「読む、書く、聞く、話す」の4技能が問われ、英語能力が就職を左右する社会となるでしょう。

5年・10年後の子供たちの未来を考えれば、時間的余裕はありません。「読む、書く、聞く、話す」英語能力は、絶対に必要なことではないでしょうか。

外国語アシスタントを全英語授業に配置し、充実させてほしいと切に願います。